

豚をめぐる情勢

令和6年11月

農林水産省畜産局畜産振興課

目次

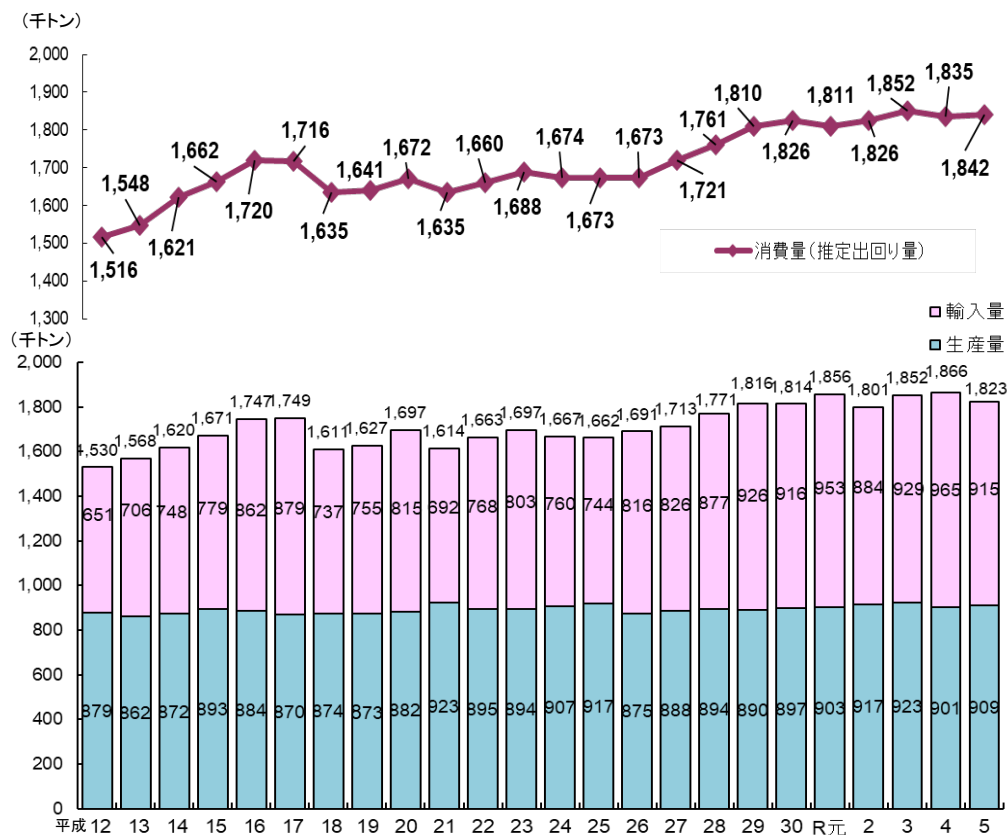
1	豚肉需給等の動向		
(1)	需給（消費、供給、輸入、輸出）	…	1
	【参考】豚肉の消費構成		
(2)	価格	…	4
	【参考】豚肉に対する消費者の意識について		
	【参考】国産及び輸入豚肉における肉質調査について		
2	経営の動向		
(1)	生産額	…	7
(2)	生産構造	…	8
	【参考】養豚における農業従事者数の推移		
(3)	生産コスト	…	10
	【参考】畜産農家の配合飼料購入価格		
	【参考】経営間における飼料の使用量の差について		
(4)	養豚経営の収益性	…	14
(5)	格付	…	15
3	飼養管理		
(1)	ベンチマーキング	…	17
(2)	オールイン・オールアウトを活用した グループ生産システム	…	18
(3)	衛生関係	…	19
(4)	人工授精	…	21
(5)	養豚におけるICT機器の活用事例	…	22
(6)	J-クレジット制度	…	23
(7)	エコフィード・飼料用米を活用した 豚肉生産に向けた取組	…	24
(8)	豚の飼養管理に関する技術的な指針（アニマル ウェルフェア）	…	25
4	豚の改良		
(1)	遺伝的能力評価	…	27
(2)	能力の国際比較	…	28

1 豚肉需給等の動向

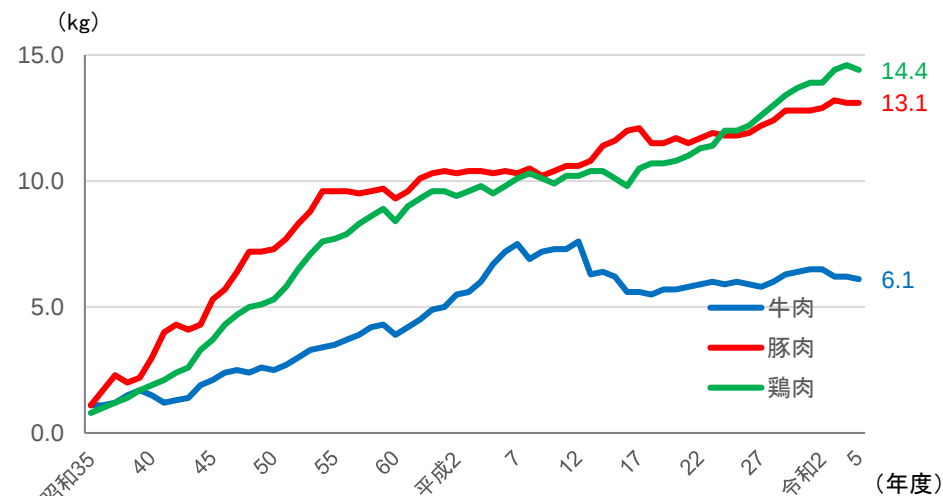
(1) 需給(消費、供給、輸入、輸出)

- 豚肉の消費量(推定出回り量)は、近年は概ね160万トン台後半で推移していたが、平成27年度以降増加傾向で推移。
- 国内生産量は、13年度以降は、概ね90万トン前後で推移。
- 輸入量は、25年度以降増加傾向。
- 輸出量は、増加傾向で推移。

○豚肉需給(部分肉ベース)の推移



○食肉の消費量の推移



資料: 農林水産省「食料需給表」(令和5年度は概算値)
注: 1人1年当たり供給純食料

資料: 農林水産省「食肉流通統計」 財務省「貿易統計」(独)農畜産業振興機構「食肉の保管状況調査」
注: 推定出回り量=生産量+輸入量+前年度在庫量-当年度在庫量-輸出量

○ 豚肉の輸入量 (部分肉ベース、単位:千トン、%)

区分 年度	合 計					
	数量		うち 冷蔵		うち 冷凍	
			数量	前年比	数量	前年比
平成2	341	93.3	40	123.2	302	90.4
7	535	106.3	165	116.6	370	102.2
12	651	99.7	193	106.3	458	97.1
13	706	108.5	203	105.2	503	109.9
17	879	101.9	217	114.9	663	98.3
22	768	111.0	236	105.2	532	113.8
27	826	101.2	341	116.7	485	92.5
28	877	106.2	364	106.8	513	105.8
29	926	105.5	399	109.6	527	102.7
30	916	99.0	405	101.6	511	97.0
令和元	953	104.0	416	102.5	537	105.2
2	884	92.7	418	100.6	466	86.7
3	929	105.1	427	102.1	502	107.8
4	965	103.9	392	91.8	573	114.2
5	915	94.8	393	100.2	522	91.0

資料：財務省「貿易統計」

○ 豚肉の国別輸入量 (部分肉ベース、単位:千トン、%)

区分 年度	国 別 輸 入 量							
	EU計		米 国		TPP11		うちカナダ	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
平成2	110	83.1	44	83.9	22	71.9	22	71.9
7	126	89.1	109	144.4	35	105.5	28	102.0
12	257	100.1	201	113.9	176	127.6	128	134.3
13	230	89.4	243	120.8	208	118.2	157	122.5
17	300	90.2	292	113.4	229	100.8	189	100.0
22	218	122.6	309	112.3	216	101.4	176	100.9
27	293	95.8	266	99.1	241	111.6	170	112.6
28	314	107.3	270	101.7	266	110.4	187	110.1
29	335	106.6	263	97.4	300	113.1	214	114.7
30	316	94.3	258	98.2	313	104.3	223	104.3
令和元	329	104.3	251	97.2	341	108.7	236	105.8
2	257	78.2	250	99.6	341	100.0	235	99.7
3	293	113.7	249	99.5	345	101.4	226	96.1
4	345	117.8	227	91.0	341	98.7	208	92.1
5	268	77.7	225	99.1	382	112.2	221	106.1

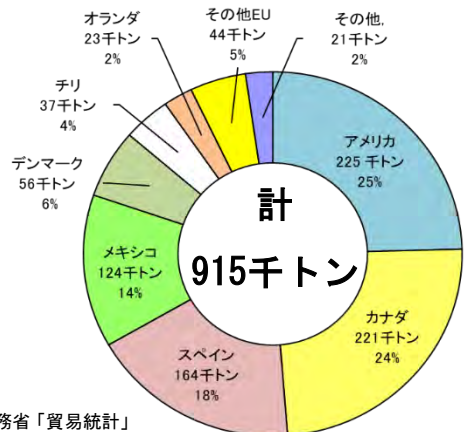
資料：財務省「貿易統計」

注：EU計は、16年4月までは15カ国、16年5月から18年12月までは25カ国、19年1月からは27カ国、

25年7月からは28カ国計、令和2年2月からは27カ国計

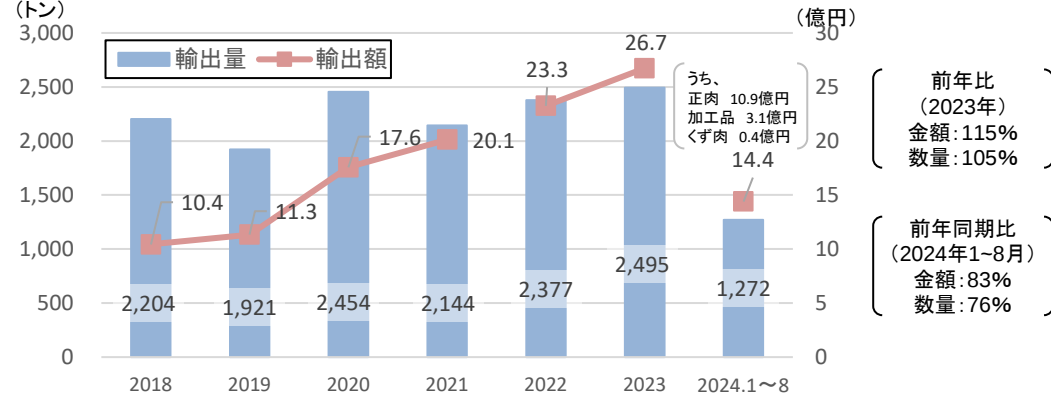
注2：令和5年2月以降、TPP11にチリを追加

○ 国別輸入量(部分肉ベース、令和5年度)



資料：財務省「貿易統計」

○ 豚肉の輸出実績



前年比
(2023年)
金額:115%
数量:105%

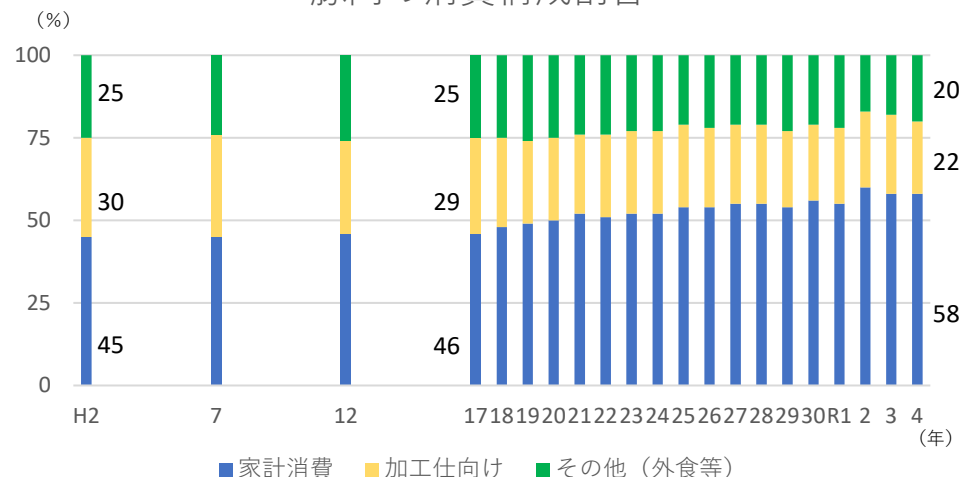
前年同期比
(2024年1~8月)
金額:83%
数量:76%

- ・豚肉の消費構成割合は、「加工仕向け」及び「その他（外食等）」から「家計消費」へシフト。

※R2年度以降で特に家計消費の割合が上がっているのはコロナ禍における「巣ごもり需要」の増加によるものと考えられる。

- ・国産における加工仕向けの割合は約10%、海外産における加工仕向けの割合は約35%と推計。
- ・「家計消費」及び「その他（外食等）」における国産/海外産の割合データについては、仮に消費の2割を占める「その他（外食等）」が全て海外産で占められるとすれば、消費の6割を占める家計消費量（＝加工仕向けとその他（外食等）を引いた量）に占める国産の割合は約78%程度と試算される。

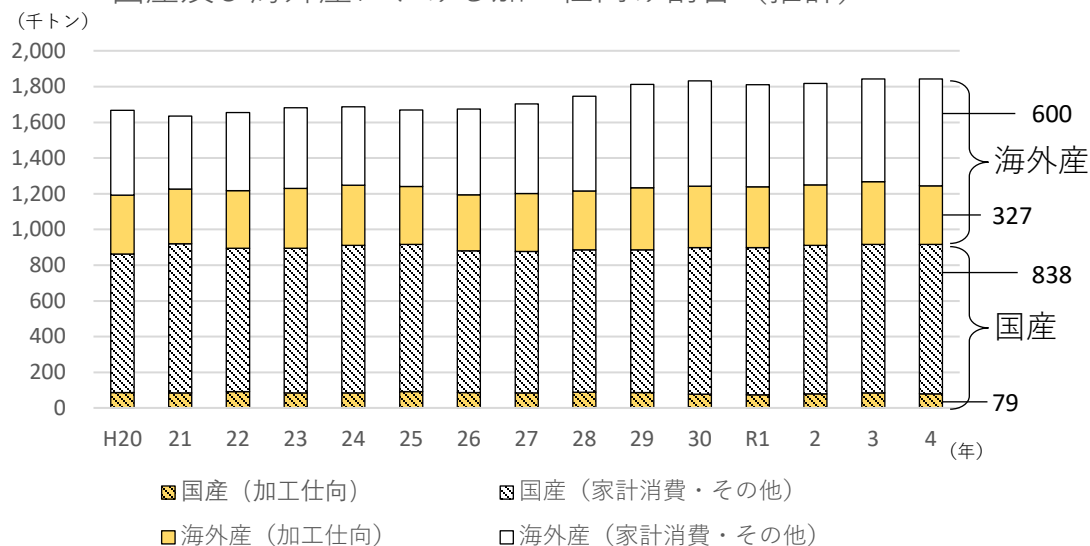
豚肉の消費構成割合



※部分肉ベース

資料：農林水産省「食肉の消費構成割合」

国産及び海外産における加工仕向け割合（推計）

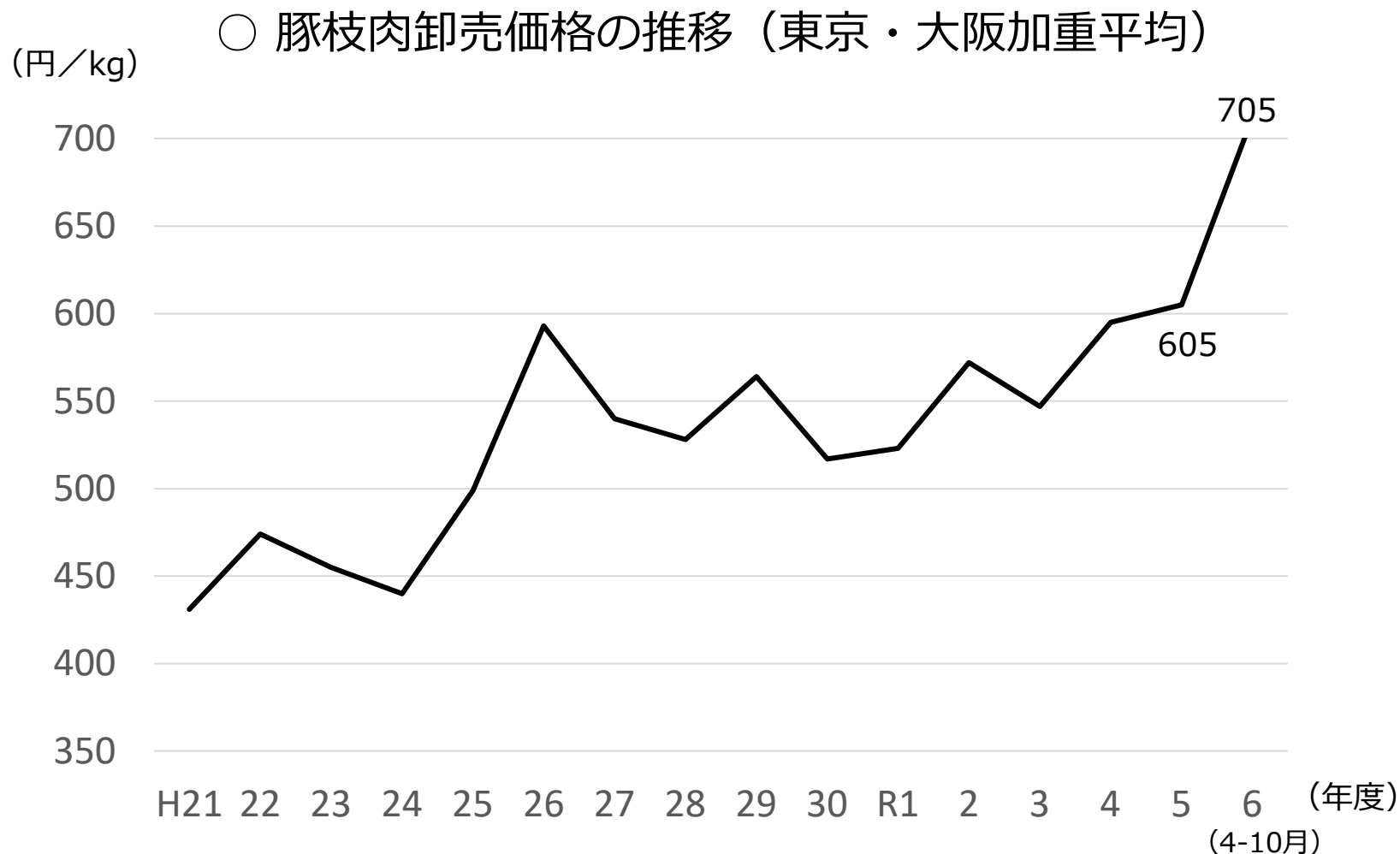


※部分肉ベース

資料：ALIC調べの推定出回り量、（公社）日本食肉協議会「食肉加工品等流通調査」等

(2) 価格

- ・卸売価格は、年間の変動では、と畜頭数が減少する夏場に上昇し、と畜頭数が増える秋に低下する傾向。
- ・近年は、輸入品の価格上昇や消費者の生活防衛意識の高まりによる需要のシフト等により上昇傾向で推移し、令和5年度は最高値を更新。令和6年度も引き続き堅調に推移し、コロナ前3年間の平均価格を上回って推移。



資料：農林水産省「畜産物流通統計」

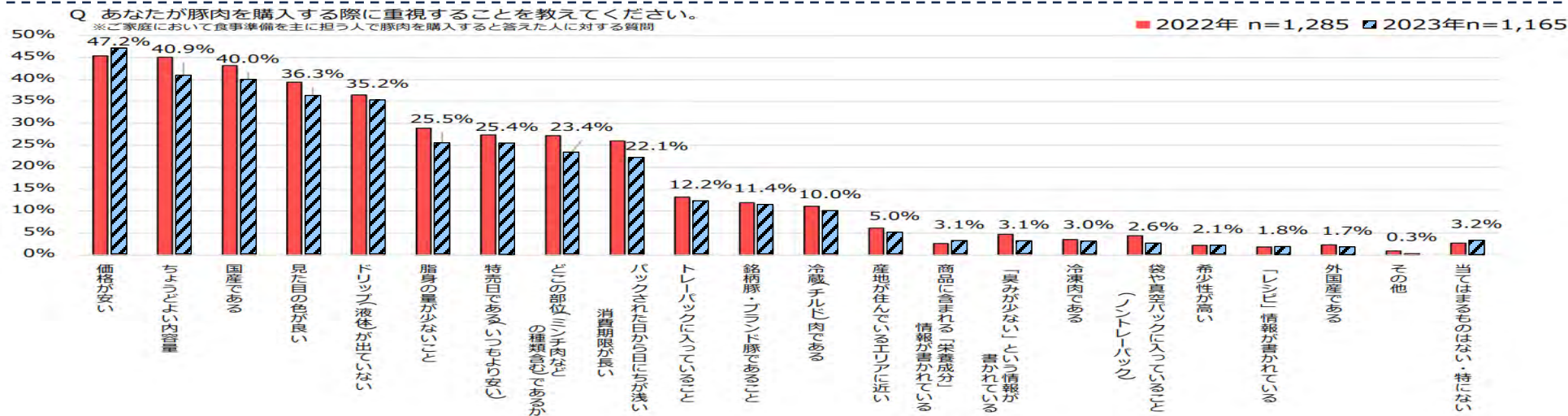
注：価格は東京及び大阪食肉市場における「極上・上」規格の加重平均値

【参考】

豚肉に対する消費者の意識について

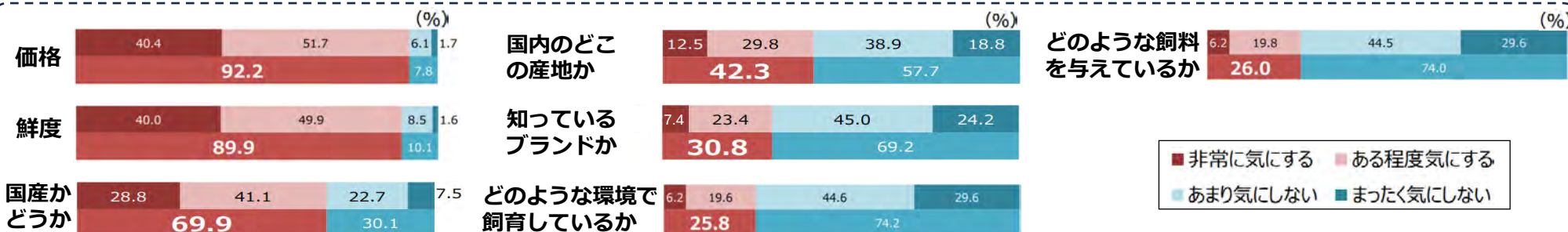
日本ハム調査：豚肉購入時に「価格が安い」「ちょうどよい内容量」「国産である」を重視する人が4割を超えている。
「見た目の色が良い」「ドロップが出ていない」など、見た目の鮮度感も重要となっている。
日本政策金融公庫調査：「価格」「鮮度」を気にする割合が約9割。「国産かどうか」を気にする割合が約7割。
脂身の少ない豚肉を購入すると回答した割合が約67%。

○豚肉を買う時に重視すること



出典：「豚肉に関する消費者調査」日本ハム株式会社

○畜産物(豚肉)購入時に気にすること



豚肉を購入する際の脂身の量



調査対象：全国20代～70代の男女各1000人（合計2000人）

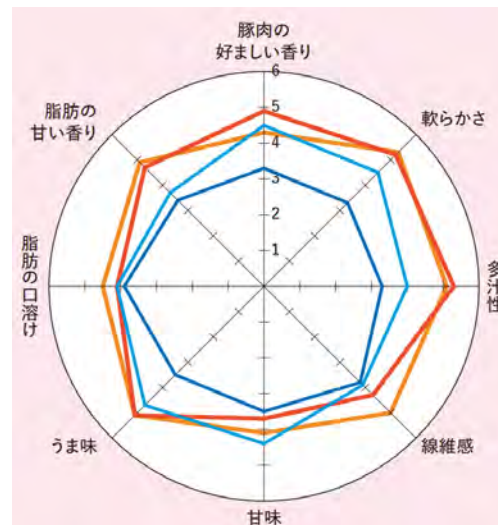
資料：「消費者動向調査（令和6年1月）」（日本政策金融公庫 農林水産事業本部）

【参考】

輸入及び国産豚肉における肉質調査について

国内に流通する海外と国産の豚肉について官能評価を行った結果では、バランスの良さを表す総合評価で、
国産銘柄豚 > 国産三元豚 > 北米産豚 > 欧州産豚
 の順となった。

		豚肉の好ましい香り	軟らかさ	多汁性	線維感	甘味	うま味	脂肪の口溶け	脂肪の甘い香り	総合評価
国産豚肉	国産銘柄豚	4.3	5.3	5.1	5.0	4.1	5.1	4.5	4.9	5.1
	国産三元豚	4.9	5.2	5.3	4.3	3.7	5.1	4.1	4.7	4.9
輸入豚肉	北米産豚	4.5	4.5	4.0	3.9	4.4	4.7	4.1	3.7	4.3
	欧州産豚	3.3	3.3	3.3	3.8	3.5	3.5	3.9	3.4	3.5



官能試験の方法

- ・パネリスト5名。
- ・ロースから切り出した試料を同一条件で加熱。
- ・+1～+6の6段階で採点。

◆ 国産銘柄豚(A・B・C県産の3種。冷蔵保存)

- ・総合評価は、最も高い5.1。
- ・物性は、軟らかさとジューシーさ(多汁性)、並びに食肉らしい食感を生み出す線維感(噛みごち)を有した。
- ・味は、強いうま味を有し、香りは、脂肪に由来する甘い香りが強いと評価された。

◆ 北米産豚(G・H国産。冷蔵保存)

- ・総合評価は、3番目の4.3。
- ・物性は、軟らかいが食肉らしい線維感(噛みごち)が乏しかった。
- ・味は、強い甘味を有し、香りは、豚肉の好ましい香りが強いと評価された。

◆ 国産三元豚(D・E・F県産の3種。冷蔵保存)

- ・総合評価は、2番目に高い4.9。
- ・物性は、軟らかさとジューシーさ(多汁性)を兼ね備えていた。
- ・味は、強いうま味を有し、香りは、豚肉の好ましい香りと脂肪の甘い香りが強いと評価された。

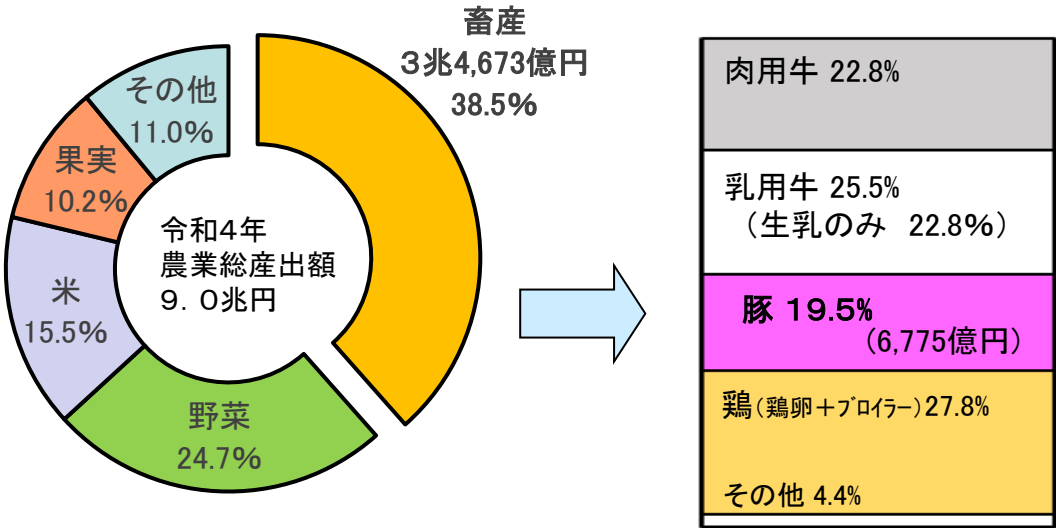
◆ 欧州産豚(I・J・K・L国産。冷凍保存)

- ・総合評価は、最も低い3.5。
- ・物性は、硬く、ジューシーさに欠ける。
- ・味および香りは、風味が乏しいと評価された。

2 経営の動向

(1) 生産額

- ・ 養豚は、農業総産出額の38.5%を占める畜産のうち、19.5%のシェア。
- ・ 産出額は鹿児島県が最も多く、産出額の上位5つの県で全国の産出額の43.2%を占める。



○ 養豚の産出額の多い都道府県

都道府県	産出額(億円)	全国に占める割合
鹿児島県	909	13.4%
北海道	550	8.1%
宮崎県	520	7.7%
群馬県	481	7.1%
千葉県	467	6.9%
上位5道県計 (都道府県合計)	2,927 (6,775)	43.2% (100%)

資料:農林水産省「令和4年生産農業所得統計(全国推計値)」

資料:農林水産省「令和4生産農業所得統計(都道府県別)」

(2) 生産構造

○飼養戸数、頭数の推移

- ・ 飼養戸数は、減少傾向で推移。小規模層で減少。
- ・ 飼養頭数は、減少傾向で推移。
- ・ 一戸当たり飼養頭数及び子取用雌豚頭数は着実に増加しており、大規模化が進展。

区 分 / 年	平成20	25	26	28	29	30	31	令和3	4	5	6
飼養戸数(戸)	7,230	5,570	5,270	4,830	4,670	4,470	4,320	3,850	3,590	3,370	3,130
(対前年増減率)(%)	(▲4.2)	(▲4.6)	(▲5.4)	(▲8.3)	(▲3.3)	(▲4.3)	(▲3.4)	(▲10.9)	(▲6.8)	(▲6.1)	(▲7.1)
うち肥育豚2千頭以上層(戸)	962.0	1,030	1,020	961	990	1,030	1,030	997	958	972	910
戸数シェア(%)	(13.7)	(20.6)	(21.5)	(21.8)	(23.2)	(25.2)	(26.1)	(28.6)	(29.7)	(32.0)	(31.8)
飼養頭数(千頭)	9,745	9,685	9,537	9,313	9,346	9,189	9,156	9,290	8,949	8,956	8,798
(対前年増減率)(%)	(▲0.1)	(▲0.5)	(▲1.5)	(▲2.3)	(0.4)	(▲1.7)	(▲0.4)	(1.5)	(▲3.7)	(0.1)	(▲1.8)
うち子取用雌豚(千頭)	910	900	885	845	839	824	853	823	789	792	758
(対前年増減率)(%)	(▲2.8)	(0.0)	(▲1.6)	(▲4.6)	(▲0.6)	(▲1.9)	(3.6)	(▲3.5)	(▲4.1)	(0.3)	(▲4.2)
うち肥育豚2千頭以上層(千頭)	5,788	6,583	6,528	6,309	6,479	6,606	6,664	6,880	6,692	6,753	6,634
頭数シェア(%)	(62.4)	(70.3)	(70.7)	(70.0)	(71.9)	(74.5)	(75.6)	(77.8)	(78.3)	(79.1)	(78.8)
一戸当たり平均 飼養頭数(頭)	1,347.9	1,738.8	1,809.7	1,928.2	2,001.3	2,055.7	2,119.4	2,413.0	2,492.8	2,657.6	2,810.9
一戸当たり平均 子取用雌豚頭数(頭)	145.6	194.7	206.4	214.4	220.9	226.3	246.6	270.8	286.9	299.9	317.3

資料：農林水産省「畜産統計」(各年2月1日現在)

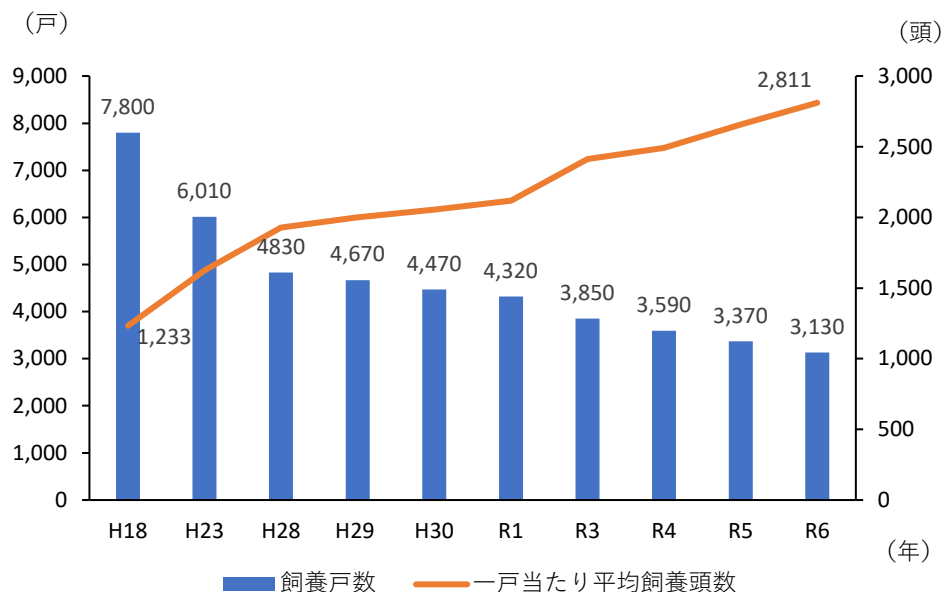
注1：平成27年及び令和2年は世界農林業センサスの調査年であるため比較できるデータがない。

また、平成28年及び令和3年の()内の数値は、それぞれ平成26年及び平成31年との比較である。

2：肥育豚2千頭以上層戸数シェア及び頭数シェアは、学校、試験場等の非営利的な飼養者を除いた数値を用いて算出している。

- ・ 飼養戸数及び飼養頭数が減少傾向で推移する中、一戸当たり平均飼養頭数は増加し、大規模化が進展。
- ・ 肥育豚農家の農業従事者数は、平成27年までは増加傾向にあったが、直近（令和2年）は減少。
- ・ 肥育豚1頭当たり平均労働時間は大規模化に伴い減少傾向にあったが、平成30年度以降増加しており、従事者数の減少や豚熱の発生による衛生管理に要する時間の増加等によるものと考えられる。

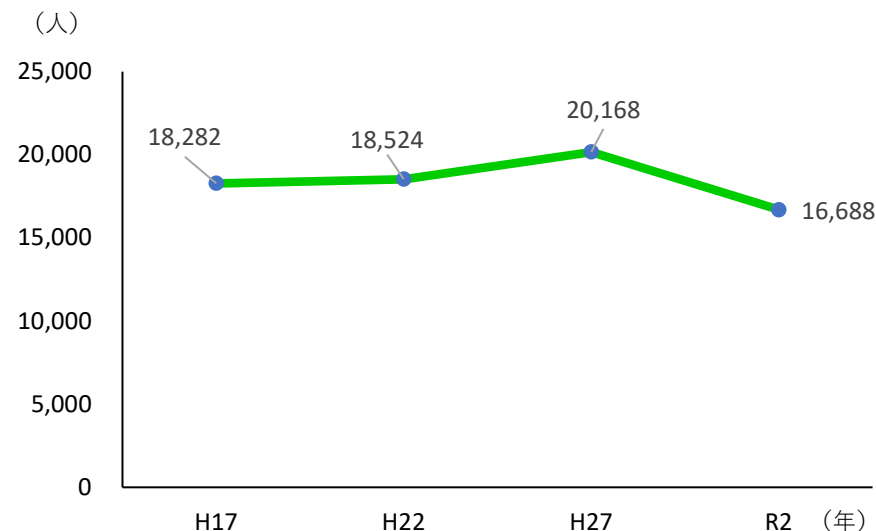
飼養戸数・頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

注：平成17年、22年、27年、令和2年については世界農林業センサスの調査年であるため比較できるデータはない

肥育豚農家の農業従事者数



資料：農林水産省「世界農林業センサス」

肥育豚1頭当たり平均労働時間

(単位：時間)

H17	H22	H27	H29	H30	R1	R2	R3	R4
3.11	2.83	2.64	2.71	2.91	2.95	2.91	2.99	3.05

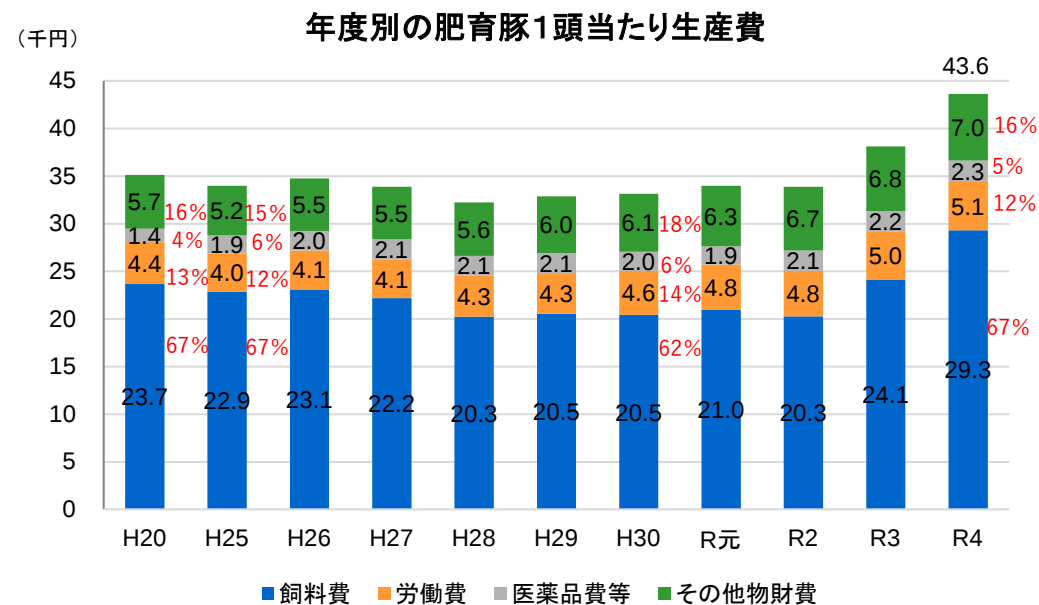
資料：農林水産省「畜産物生産費統計」

注：平成22年～30年は年度集計、それ以外は年次集計

(3) 生産コスト

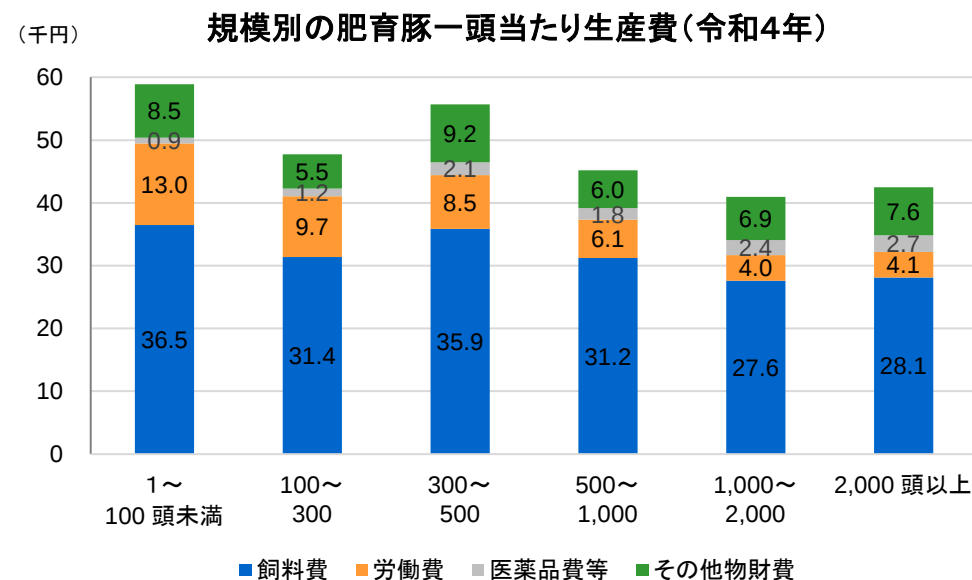
①近年の肥育豚生産費

- 令和4年生産費43,622円のうち、飼料費が約67%、労働費が約12%を占める。
- 令和3～4年度は、配合飼料価格の高騰により増加。令和4年度は対前年比＋14.4%。
- より一層のコスト低減を図るためには、エコフィード等安価な飼料の利用割合を高め、飼料費を低減することが重要。



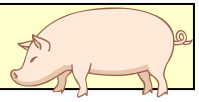
②規模別の肥育豚生産費

- 飼料費と労働費は規模の大きさにより減少傾向。
- 一方、医薬品等費については規模の大きさにより増加傾向。



資料：農林水産省「畜産物生産費調査」

- ・ 肉豚や鶏では、大量に購入・輸送しているケースが多い。一方、乳牛や肉牛で多く見られる家族経営では配合飼料の使用量が少なく、小口で購入しているケースも多いとみられる。
- ・ また、同一畜種間においても、購入量や価格交渉の結果により、配合飼料の購入価格に大きな差。
- ・ 経営コストに占める飼料費の割合が高い豚や鶏において、飼料の購入価格は経営に大きく影響。

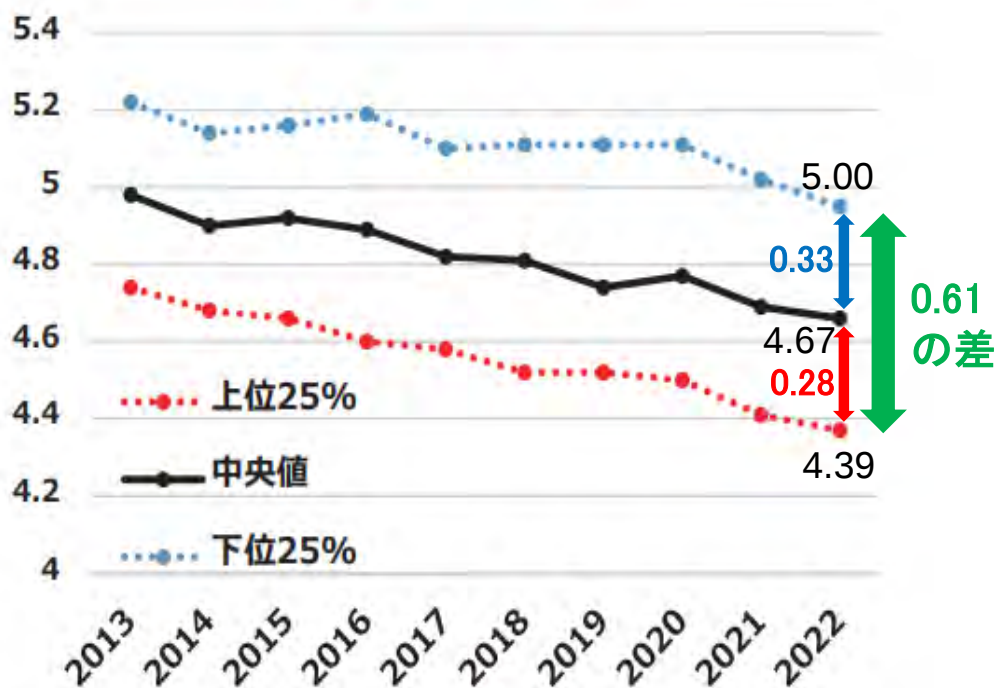
畜種	購入価格 (令和5年3月、農家聞き取り、輸送費込み) [最小価格～最大価格]	経営コストに占める 飼料費の割合 (R4年)
乳牛	68,050～106,050 円/トン	北海道 46% 都府県 54% 
肉牛肥育	65,230～96,680 円/トン	38% 
肉牛繁殖	78,200～106,710 円/トン	43% 
肉豚肥育	50,160～105,559 円/トン	67% 
採卵鶏	60,500～103,290 円/トン	58% 
肉用鶏	42,900～109,958 円/トン	57% 

資料：農林水産省「農業資材の供給の状況に関する調査について」(令和6年2月公表)、「令和4年畜産物生産費統計(確報)」および「令和4年営農類型別経営統計(確報)」
 注：繁殖牛(子牛生産)は子牛1頭当たり、肥育牛および肥育豚は1頭当たり、生乳は実搾乳量100kg当たり、養鶏は1経営体当たり

【参考】 経営間における飼料の使用量の差について

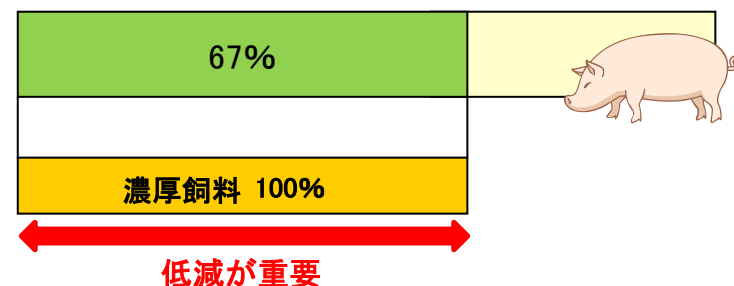
- ・ 養豚の経営コストに占める飼料費の割合は高く、その低減が重要。
- ・ 農場における飼料の使用量については、飼料の食べこぼしや死亡豚の減少など飼養衛生管理の改善によって削減を図ることも可能。
- ・ 飼料自給率の向上の面でも、国産飼料の供給量を増やす取組と併せて、飼料全体の需要量を減らす取組も重要。
- ・ 2022年のベンチマーキングの結果を基に、経営間における飼料の使用量の差を推計したところ、上位経営と下位経営では約14%の違い。

農場枝肉FCR



経営コストに占める飼料費の割合(R4年)

肥育豚



枝肉重量 78kg/頭の場合

※農林水産省試算

- ・ 飼料の使用量の差：48kg/頭
下位と比較し、上位は14%削減
- ・ 飼料価格の差(配合飼料価格78,000円/トンの場合)：
約3,700円/頭
- ・ 飼養頭数 2,600頭の農家の経営全体の飼料費の差：
約2,100万円/年

資料: 佐々木 羊介「JASVベンチマーキング2022年データの解析結果」『日本養豚事業協同組合 ゆめ通信』No.129、2023年9月1日、p. 6、7ページ
「枝肉重量78kg./頭の場合の試算」は、2022年農場枝肉FCRの数値を基に、農林水産省「農業資材の供給の状況に関する調査について」等を用いて農林水産省で試算。

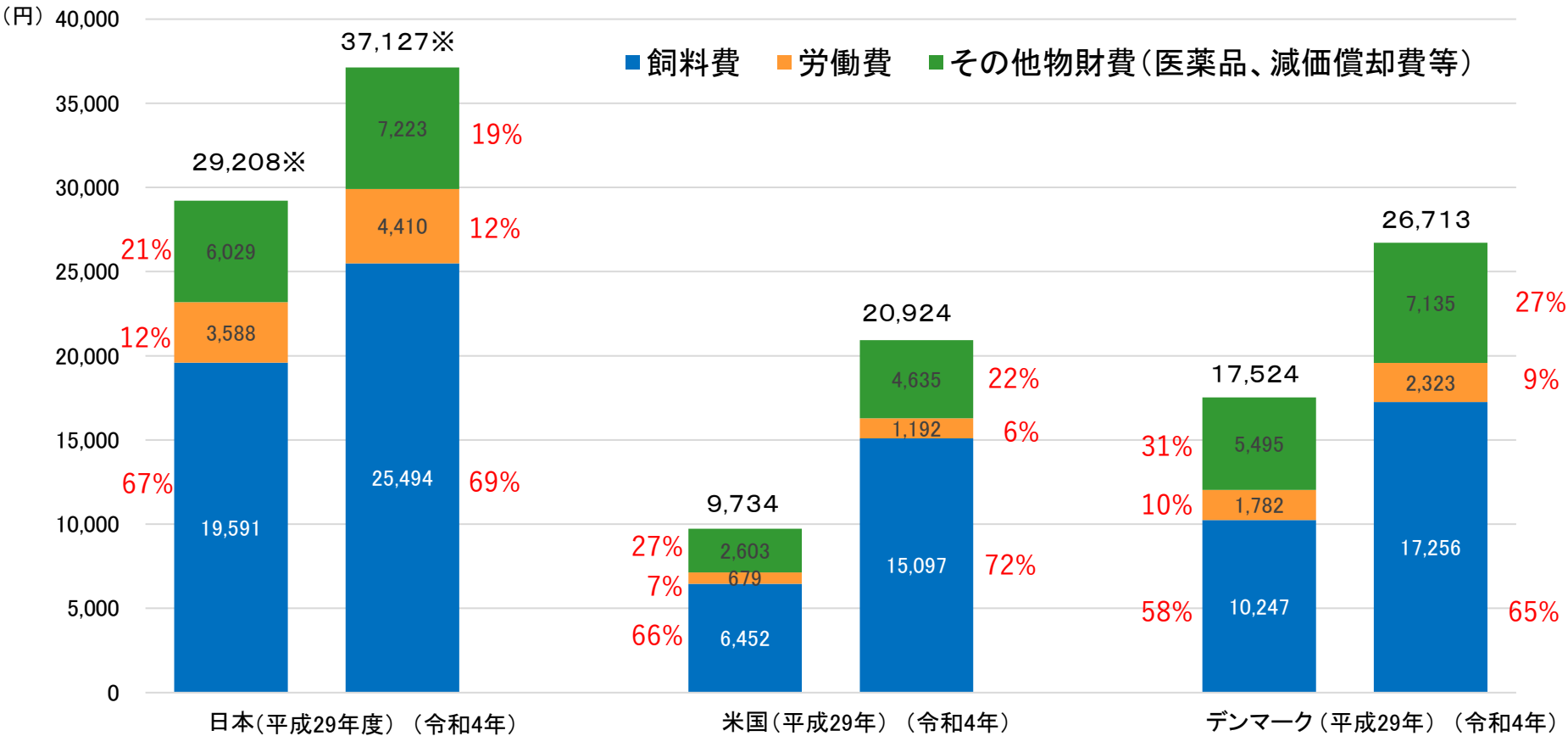
注: 上記の数値は、ベンチマークに参加する全農場のデータを集計しているため、種豚の違いによる差があることに留意。

「農場枝肉FCR」: 農場全体で生産された枝肉と農場全体で給与した飼料の重量比

③生産コストの国際比較

令和4年における我が国の豚肉の生産コストは、米国と比べて約1.8倍、デンマークと比べて約1.4倍のコストとなっている。

肥育豚生体100kg当たり生産コスト



資料: (日本)農林水産省「農業経営統計調査 令和4年度肥育豚生産費」、「農業経営統計調査 平成27年度肥育豚生産費」
(米国、デンマーク)Agriculture and Horticulture Development Board「2022Pig cost of production in selected countries」
「2017Pig cost of production in selected countries」
注: 為替レートは三菱東京UFJ銀行TTS相場年間平均 (2017年)1米ドル=113.19円、英ポンド=148.51円 (2022年)1米ドル=132.43円、英ポンド=165.92円、
※各費用の合計(平成29年度:29,942円、令和4年:37,940円)から、副産物収入(平成29年度:734円、令和4年:813円)を差し引いたもの

(4) 養豚経営の収益性

- ・平成26年度以降は、枝肉価格の上昇により収益性は上昇傾向にあったが、直近は配合飼料価格等の資材高騰により収益性は低下している。

○養豚経営の収益性の推移

(単位:円)

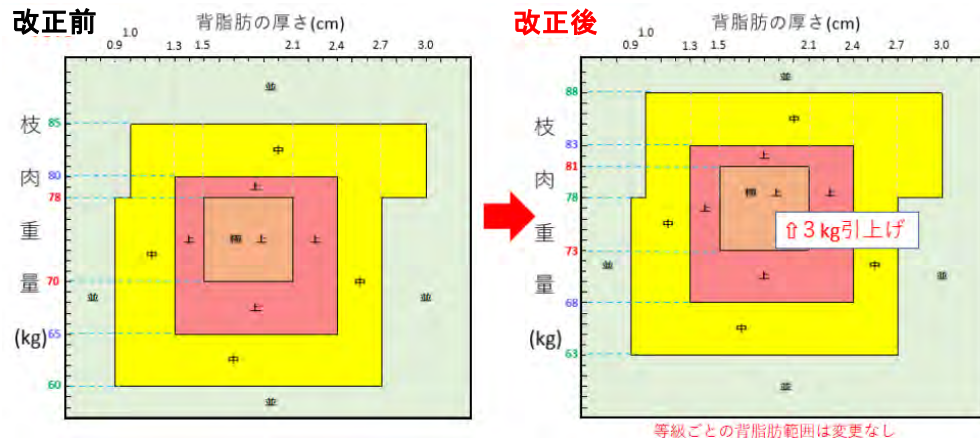
区 分 / 年度	H20	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
肥育豚一頭当たり所得	3,144	3,159	9,024	8,102	9,169	10,729	7,504	7,596	9,712	4,533	1,160
一日当たり家族労働報酬	7,398	9,690	31,741	28,060	32,098	38,841	23,156	22,091	30,705	12,680	1,432
枝肉価格(年度平均)	496	499	593	540	528	564	517	523	572	547	595

資料:農林水産省「畜産物生産費統計」「畜産物流通統計」

(5) 格付

- ・ 格付は、(公社)日本食肉格付協会(以下「日格協」という。)が定めた全国統一の枝肉の取引規格(①枝肉重量と背脂肪の厚さ、②外観、③肉質)に基づき、極上、上、中、並、等外の5段階で評価しており、食肉流通の指標として、公正かつ自由な食肉取引の推進及び公正な価格の形成に寄与している。
- ・ 日格協は、豚肉の差別化やブランド化等のため、平成30年から豚肉の脂肪交雑基準(P.M.S.)に基づく脂肪交雑の判定、令和5年からオレイン酸測定及び豚枝肉格付結果等情報提供システムの運用を実施している。
- ・ 前回の豚枝肉取引規格の改正から26年が経過し、豚枝肉重量も増加していること、また、家畜改良増殖目標(令和2年3月)において、出荷体重を現状の115kgから120kgに引き上げる目標とされたことを踏まえ、令和5年1月1日に、重量帯の上限と下限を3kgずつ引き上げるよう取引規格を改正。
- ・ 等級毎の割合は、令和5年の格付規格の改正により、「極上」、「上」が増加しており、格付率も77.1%と高い水準で推移している。

○ 半丸重量と背脂肪の厚さの範囲(皮はぎ用)



枝肉重量と背脂肪の厚さの範囲

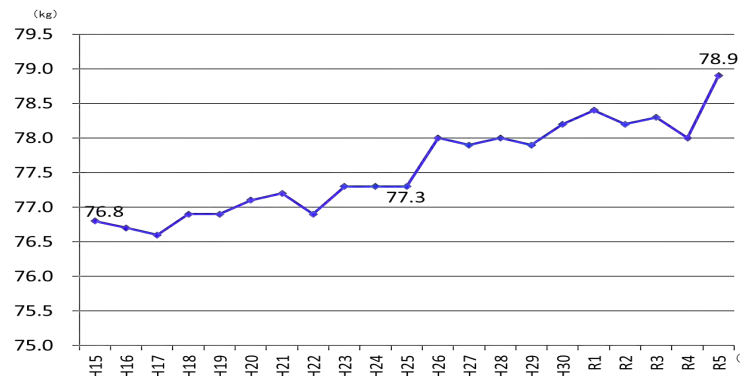
等級	重量(kg)		背脂肪(cm) (変更なし)
	改正前	改正後	
極上	70.0以上 ~ 78.0以下	73.0以上 ~ 81.0以下	1.5以上 ~ 2.1以下
上	65.0以上 ~ 80.0以下	68.0以上 ~ 83.0以下	1.3以上 ~ 2.4以下
中	60.0以上 ~ 78.0未満 78.0以上 ~ 85.0以下	63.0以上 ~ 78.0未満 78.0以上 ~ 88.0以下	0.9以上 ~ 2.7以下 1.0以上 ~ 3.0以下
並	60.0未満 60.0以上 ~ 78.0未満 78.0以上 ~ 85.0以下 85.0超過	63.0未満 63.0以上 ~ 78.0未満 78.0以上 ~ 88.0以下 88.0超過	0.9未満 2.7超過 1.0未満 3.0超過

豚肉のオレイン酸測定

(公社)日本食肉格付協会は、光学測定装置を用いた豚枝肉でオレイン酸の測定方法を確認し、令和5年1月から希望者に対し、測定を実施。

- 豚肉の差別化やブランド化、特色を活かした多様な販売方法に取り組もうとする生産者や事業者の一助になり得るものであり、消費者の多様なニーズに対応し、国産豚肉の更なる需要拡大が期待される。

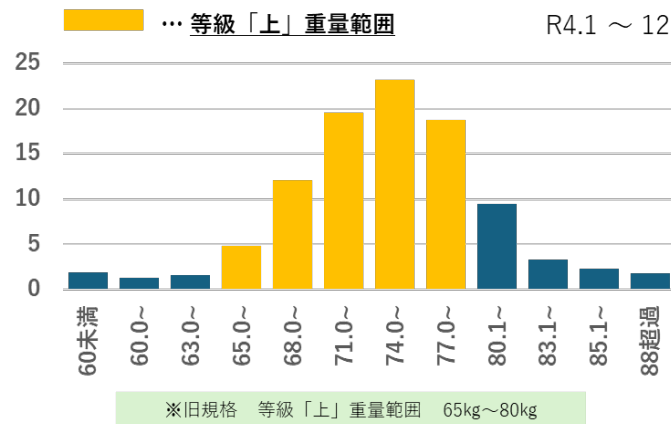
○ 豚枝肉の平均重量の推移



資料：農林水産省統計部「食肉流通統計」
注：平均枝肉重量＝枝肉生産量／と畜頭数

○ 豚枝肉重量分布から見た「上」重量範囲率の新・旧比較

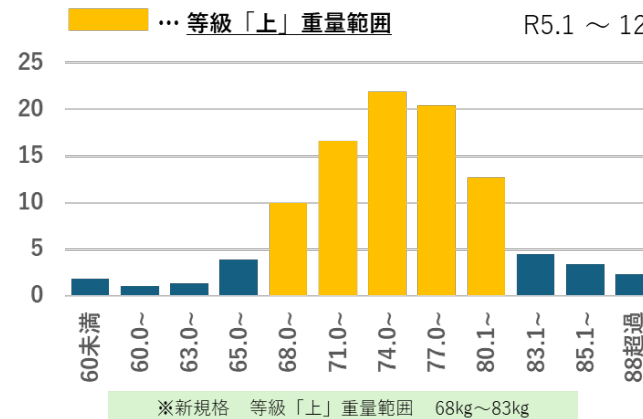
枝肉重量分布（旧規格）



「上」の重量範囲率

78.2%

枝肉重量分布（新規格）



「上」の重量範囲率

81.6%

3.4%アップ



※集計条件: 令和4、5年 1月~12月(と畜日集計)、繁殖供用豚は除く

○ 豚枝肉の格付結果の推移

